

「認知症」になっても安心できる町に

認知症は、脳の病気。決して、特別な病気ではなく、誰もがなるおそれがあります。早期発見、早期の相談が大切です。

認知症は脳の神経細胞が損傷を受けるため、日常生活に支障をきたす、認知機能障害です。ひとりで「認知症」といっても、原因や症状はさまざまです。認知症で、代表的な症状の1つが「記憶障害」です。これは、単に年をとって現れる「物忘れ」とは違い、体験したことすべて たとえば 電話の内容だけではなく、電話で話した行為さえ忘れてしまうのが特徴です。

注意すべき変化

最近こんな変化ありませんか。
認知症の症状かもしれません

1. 計画がたてられない。(食事の支度が順序よくできない)
(旅行の予定などがたてられない)
2. すぐまえのことも覚えていない。
(昔のことは比較的よく覚えている)
3. 言葉が出てこない。会話がうまくできない。
4. 興味や関心を示さなくなった。
5. 簡単な計算や、お金の勘定ができなくなった。
6. 事実ではない話をする。攻撃的になる。

なじみの顔、なじみの環境がいちばんの安心

高齢になっても、認知症になっても、自分らしく安心して生活したい。だれもが思うことです。自分が安心できる環境、それは「なじみの顔や、なじみの場所、聞き慣れた声や音に囲まれた空間」に他なりません。認知症になっても、自分のペースで自分らしく生きられる町。皆野町に暮らす皆さんの理解や支えが欠かせないのです。

認知症のことをもっと知りましょう。

町では、「認知症・うつ対策講座」というテーマで、医療法人全和会の協力を得て、各地区の公会堂などで講座を開いています。ぜひご参加ください。講座の開催予定など各地区の回覧などでお知らせしています。



「ちょっとへんだな」と感じたら 地域包括支援センターへ 相談を。

認知症にかぎらず、「虐待をうけた」「悪質商法の被害にあった」「認知症の人が行方不明になった」「一人暮らしの方が孤立死した」「介護の苦で心中をはかった」など、高齢者をめぐる悲しい事件がおこらないようにするには、地域の皆さんの見守りや気づき、声かけが鍵をにぎります。現に、最悪のケースに至る前に、実は周囲は異変に気づいていた・・・ということも少なくないのです。「ちょっとへんだな」と思ったら、地域包括支援センターへ連絡してください。

もちろん、連絡者が特定されたり、連絡したことで不利益を被ることはありません。

問合せ 地域包括支援センター
☎62-1233

社会を明るくする運動

毎年7月は、「社会を明るくする運動」の強調月間です。

この運動は、すべての国民が犯罪や非行の防止と罪を犯した人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪や非行のない明るい社会を築こうとする全国的な運動です。



愛の募金にご協力を

社会を明るくする運動の一環として非行防止と更生援助を目的とする「愛の募金運動」を実施します。皆さんの温かいご協力をお願いします。

問合せ 健康福祉課福祉介護担当 ☎62-1233

ふるさと納税者ご紹介

納税額 100,000円
納税者 神谷 善治 様 (東京都荒川区在住)
寄附目的 森林保護



水源地の森林を守って欲しいとの願いからご寄附をいただきました。大切なお気持ちを無にせぬよう、森林保護に役立たせていただきます。

神谷様は平成21年に引き続き2度目のご寄附です。大変ありがとうございました。